



学校便り

五小HP

<http://hachioji-school.ed.jp/dai5e/>

平成26年2月3日

NO-12

八王子市立第五小学校

校長 山口 菜穂子

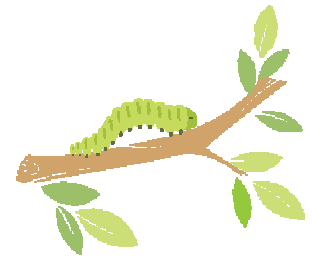
『私の「役割」って？』

校長 山口 菜穂子

2月。如月。節分、立春を迎えます。春が待ち遠しいときですが、木の芽のふくらみに、日中の日差しに確実に近づいている春を感じるこの頃です。

今年の五小の2月には、大きな行事『学芸会』があります。今、学校では『学芸会』に向けて、役決め、台本読み、読み合わせが始まり、これから練習が本格的になっていくことでしょう。

衣装、大道具、小道具、準備していく中でご家庭にも協力をお願いします。どうぞ、よろしくお願いいたします。



さて、子供たちの学芸会の取り組みから、自分の小学校6年生の時の学芸会を思い出しました。私は、照明・放送係でした。担任の先生から指示された係でした。私は出たがりの子供だったので、舞台上に立ちセリフを言う役なのかと勝手に思っていたので「なぜ。」と思ったものです。

しかし、劇の練習が進むにつれて、この係の重要性が分かってきました。ここで、照明が消えなかったら劇は止まる。ここで音楽がならなかったら、劇は台無しになる。まさに縁の下の力持ちでした。照明も放送も複雑なからくりになっていて、1回もまちがわず行うことはなかなかできませんでした。係は同じクラスの男子と2人でやっていたのですが、2人で『絶対、完璧にやろう！』と誓って、当日責任を果たしたのを覚えています。最後のフィナーレには、照明を全開にして、放送係としてマイクのスイッチを入れ、誇らしげに仲間の舞台を見ていました。自然に涙がこみ上げてきました。

何の涙だったのか。後で、気が付いたことですが、担任の先生は私にこれを分かったのでしょうか。「世の中には様々な役割がある。表舞台だけ見るな。」です。

今回の学芸会で、子供たちは、きっと与えられた役割を自分のもっている力を総動員し、必死でその責を果たそうと努力するでしょう。一つの劇にするために、数十名が自分は何をしてこの劇の作り手の一員になるのか・・・とがんばらなくてはなりません。努力すると、そこに、学びが生まれます。それが重要です。

この学芸会での『役割』から、子供たちには様々な『役割』を学んでもらいたいです。さらに、「ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために」その役割を实践して、その大切さ、素晴らしさ、温かさ、有難さを感じてほしいと願います。

私たちは、日々いろいろな役割を担っています。例えば私ですと、校長・教師・母・妻・娘・大人・都民・日本人・人間・・・その役割を認識して、責任を果たしているのでしょうか。自分で言っておきながら、耳が痛い。裏舞台で支えてくれている役割のこと、忘れていないのでしょうか。新しい学年を迎える前に子供たちと一緒に考えます。